



私たち社会福祉士が、皆さんのようにかわってほしいかということを知ってもらうため、どのような仕事をしているかをご紹介します。

社会福祉士とは?

法律では「専門的知識及び技術をもって、身体上もしくは精神上の障害があること、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、その他の援助を行うことを生業とする者」と定義されています。

言い換えれば、皆さんの相談に応じ、皆さんが問題を解決していくことを支援して

くことを仕事とする「相談援助の専門職」です。それぞれの生活スタイルや場面ごとに説明をしていきます。

子育て(家庭)支援...

育児は24時間365日です。思いどおりにならない子どもにいらしたり、たいていしまったりしていませんか。子どもの発育や家庭内の問題の相談を必要に応じ保健師や児童相談所と連携して子どもや保護者のかたに助言をします。

皆さんが抱えている問題を解決するお手伝いさせていただきます。



高齢者支援...

加齢に伴い「体力の低下が気になる」「日々の生活の中で、介助してほしい」などのお悩みはありませんか。本人や家族の希望を尊重し、

相談援助を行っていきます。介護保険制度や福祉サービスのお問い合わせも構いません。

障害のある人とともに...

障害がある人と言っても、障害をもった時期や種類などで、一人一人抱える問題は違います。それぞれの障害の特徴も踏まえ、相談援助や助言などをします。

一人一人にふさわしい生活や社会参加の方法をいっしょに考えていきたいと思っています。

経済的な理由など支援を必要とする人々支援...

経済的な理由などにより「日常生活を送るうえで支援が必要」という人が多くいます。

「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」ということを理念とする生活保護制度に基づいて、そのような状況にある人たちの権利を守ります。自立生活と生活の安定化を実現していきます。

地域社会の中心...

「地域のみんなで、よりよい地域社会を作っていく」という機運の高まりとともに、町では自治会や老人会など地域の活動が盛んになっていきます。

地域福祉の充実や助け合いの担い手として、皆さんといっしょに地域で活動していきたいと思っています。ご要望などを聞かせてください。

お気軽にご相談ください

役場には社会福祉士が福祉課と保健介護課に一人ずついます。

役場までなかなか来られないかたは、電話でも構いません。希望すれば、私たちが自宅に伺っています。

「一期一会」の気持ちで相談に来られるかたに誠心誠意対応します。

困っていることがあれば、お気軽にご相談ください。

※今月号は、「お元気ですか? 保健師です」を休載しました。



福祉課の頼任順子です。児童に関することや障害のあるかたの福祉サービスとの相談、関係機関との調整を担当しています。



保健介護課の古屋純です。高齢者の相談援助や権利の擁護、ほかにもさまざまな相談を担当しています。

福祉課 ☎ 84-0316
保健介護課 ☎ 84-0320

子育てのポイント 51

夜遅くまで起かれよう、朝起きられよう。生活リズムを整えたいのが。

A 最近では大人が夜型の生活になってきているので、夜更かしをする子どもが増えています。ちょうど眠るころにお父さんが帰ってくると、夜の楽しいスキップの時間と重なってしまい、翌朝起きられないことになります。

人間には眠気を強くするメラトニンというホルモンがあります。メラトニンは暗いところで多量に分泌され、明るいところではその分泌が抑えられる働きを持っているので、夜、子どもの眠る寝室の明かりをつけていたり、テレビをつけっぱなしにしていたりすると、メラトニンの分泌が抑えられ、子どもはなかなか眠りにつくことができません。夜は子どもが眠りにつきやすいように寝室を暗くしてあげましょう。

また、メラトニンは昼間た

84-0327

保健介護課

くさん太陽を浴びることで夜多量に分泌されます。天気の良い日はできるだけ子どもを外で遊ばせましょう。

睡眠は、心身を休ませたり、体の調整や成長に必要なホルモンを分泌したり、免疫力を高めます。よい睡眠を確保するには、早起きをし、昼間十分に体を動かし、きちんと3回の食事をとるというリズムをつけてあげることです。そうすれば、夜は疲れて眠くなり、自然に早寝するようになります。

朝は6時〜7時ごろに起こし、夜は8時〜9時ごろに寝かせられたらよいですね。まず、起きる時間を決めて、朝早く起こすことからはじめましょう。

11 時25分、「時間だよ!」

と、給食室では大きな声でワゴン運ぶ合言葉が飛び交う。各保育室に給食のワゴンを運んで行くと、給食の準備をしている子どもたちと目が合ったと思ったら、ワゴンに視線が集中します。「わあ、給食が来た!」「今日はなに?」「待ってました!」目を輝かせて子どもたちは口々に言ってきます。うれしい瞬間です。

年 長さんはつい最近まで

年少さんだったことなど忘れてしまいそうなくらい、お兄さん、お姉さんらしく、コックさんとして年少さんの配膳をしてあげに行きます。「入ってもいいですか?」大きな声で元気よく年長さんが言うとき、年少さんも大きな声で元気よく「入ってもいいですよ!」と笑顔で答えます。

年 少さんも4月に入園し

たばかりなのに素晴らしいです。

ワ ゴンを運んで行った私

に保育室から大きな声が飛び出してきました。「ありがとうございます!」私も負けずに「どういたしまして。」

午 たくさん食べてくださいね!

と大きな声で返します。後、ワゴンを回収に行くと子どもたちが「今日の給食、とってもおいしかったよ」「僕、全部食べられたよ」と報告してくれます。その言葉どおり食缶を開けてみるとほぼ空っぽです。よく食べてあり、一生懸命作った食缶があります。無理して嫌

子 どもたちにとって励みになりま

す。食を食べてもらうためには、常に「安心・安全」を心がけなければなりません。限られた時間内に手早かつ確実に、衛生第一で作業しなければなりません。毎日が緊張の連続です。食の安全は子どもたちの命がかかっています。子どもたちの元気な笑顔を守るために、日々頑張っている給食を作っていくと思います。



子どもたちの笑顔が励みに

